

7・23温州列車脱線事故におけるネット世論の形成

——新浪ニュースサイト、新浪微博、天涯掲示板の分析を通じて

The formation of Chinese net media's public opinion on 7・23 Train Wreck reports , Through the analysis of Xinlangnewsite, XinlangWeibo,TianyaBBS

陳 雅賽

Yasai CHEN

早稲田大学大学院政治学研究科 Graduate School of Political Science, Waseda University

要旨…本報告では、7・23温州列車脱線事故について、事故直後のネットメディアにおける報道と世論がどのように形成されたのかを明らかにするために、ニュースサイト、微博、掲示板の三種のネットメディアにおける報道や書き込みに関して量的・質的な内容分析を行った。その結果明らかとなったのは以下の五点である。第一に、既存メディアへの依存度では、三種の中では、ニュースサイトが依存度が最も高いことが分かった。また、微博、掲示板も既存メディアの情報に依存し、掲示板の依存度は最も弱いことが明らかになった。第二に、報道内容の特徴については、新浪ニュースサイトは客観的に事故情報、最新状況を提供することが主である。新浪微博は事故に遭遇した者が経験した事故状況、或いは非当事者が他のメディアから転載した事故情報の提供が主だが、政府や鉄道部に対する批判が三割近く見られた。天涯掲示板は関連部門の責任追及などの当局批判、社会問題の提示などを特徴としていた。第三に、公権力に対する批判性については、三種のメディアとも党中央、鉄道部を含む公権力を批判した報道・書き込みが見られたが、否定的な報道の割合はニュースサイトが最も低く、掲示板は最も高かった。第四に、批判対象では、事故の直接関係部門である鉄道部への批判が最も多く、中央指導部、指導者など党中央・中央政府の動きへの批判や疑問を投げかける報道、書き込みは見出されなかった。第五に、ネットにおける論争のテーマでは、事故の原因及び事故の責任に論点が集約し、それは中国の経済発展の方針に疑問を呈するまで発展していた。以上から、ニュースサイトの情報伝達性、微博及び天涯掲示板の議論性及び既存メディア報道の力が合わさって7・23鉄道事故に関する情報が早く伝達され、鉄道部批判の世論が形成されたことが明らかになった。微博、掲示板などのSNSは中国の突発事件の情報提供を行うと共に、その議論は市民からの発言を促進したといえる。

キーワード 事件報道、中国のメディア、突発事件

1. 初めに

本研究は、2011年7月23日に中国温州市で発生した7・23事故（2011年温州市高速列車衝突脱線事故）を対象として、ニュースサイト、微博（中国版のツイッター）、掲示板という三種のネットメディアにおける報道、書き込みの内容分析を通じて中国のネット世論の実態を明らかにするものである。近年、中国においてネットメディアの力は注目されている。特に、2011年の7・23事故の第一報は微博から流され、鉄道部の事故責任追及、中国鉄道産業への非難、中国経済の発展体制への批判などがネットメディアから発信され、中国当局に圧力をかけた。しかし、先行研究では、政府の立場から危機管理に焦点を当てた研究が多く、事例分析を通じて各ネットメディアが世論形成に与える影響に関する研究はまだ少ない。本研究はニュースサイト、微博、掲示板、三種のネットメディアにおける報道、書き込みの分析を通じて、7・23事故におけるネット世論はどのように形成されたかを明らかにする。さらに、ニュースサイト、微博、掲示板がそれぞれどのような役割を果たしているのか、中国のネット世論が中国社会にどのように変化をもたらすのか、内容分析を通じて考察することを目的とする。

2. 先行研究

7・23事故のネット世論研究は事故発生後、中国で盛んに行われた。第一報を発信した微博についての研究では王（2012）が新浪微博の7・23事故の発信者のクレジット、書き込みの形式（文字、動画）、フレーム、態度を分類し、書き込みの発信者や彼らの態度が明確にした。しかし、書き込みコメントについては分析していない。また、微博における議論や他のメディア

との連動についても論じていない。ニュースサイトに関する研究では、楊（2012）、毛（2012）が挙げられる。これらの研究はニュースサイトを研究対象とし、それぞれのサイトの7・23事故の報道における役割を明確にした。しかし、以上の研究は単純に種類のネットメディアに限っており、7・23事故のネット世論の形成の全体像を把握するには不十分である。

3. 研究方法

事故発生後の二週間、7月23日から8月6日までを対象期間とし、三種のネットメディアを比較分析した。ニュースサイトは新浪ニュースサイト、微博は新浪微博、掲示板は天涯掲示板を選択した。三種のネットメディアの7・23事故に関する報道・書き込み、さらに微博、掲示板では書き込みに付随するコメントも分析した。

まず新浪ニュースサイトでは、該当記事は1120件だった。一方、新浪微博、天涯掲示板はいずれも毎日膨大な書き込み数があるため、新浪微博ではその日の「人気書き込み」（熱門微博）¹になった発信に調査対象を絞ることにした。その結果、171件の書き込み、およびそれらに付随するコメント8150件が抽出できた。天涯掲示板の場合は、「7・23」、「動車」（高速列車）をキーワードとして検索し、その中でコメント数が50以上の72件の書き込みと人気書き込みに付随するコメント400件を抽出した³。

以上のように抽出したデータについて、三種のネットメディアの書き込みを情報源、報道主題、報道イメージ（プラス、中立、マイナス）、指摘対象にコーディングした。加えて、微博、掲示板では書き込みをフレーム（情報共有、批判・疑問、理性的分析、その他）にコーディングした。また、微博、掲示板の書き込みに付随するコメントをフレーム（フォロー、非理性的発言、理性的討論、批判・疑問、情報共有、その他）にコーディングした。分析結果に基づき、ネット世論の形成における各メディアの役割と、それらの相互の影響を考察した。それに基づきニュースサイトの主要な報道内容、微博と掲示板の書き込みおよびコメントの批判点、争点がネット世論の形成にいかに関与したかを論じる。

4. 分析結果

三種のネットメディアの書き込みを分析した結果は、4.1情報源、4.2報道主題、4.3報道イメージ、4.4指摘対象で示す。4.5は、微博、掲示板の書き込みのフレームの分析の結果、4.6は微博、掲示板の書き込みに付随するコメントのフレームの分析結果を示す。

4.1 情報源

表1 三種のメディアの転載記事・書き込み件数と割合 注：0の%は総報道件数のうちに占める割合

ネットメディア	転載記事・書き込み	非転載記事・書き込み	合計
新浪ニュースサイト	1115 (99.6)	5 (0.4)	1120 (100.0)
新浪微博	30 (17.5)	141 (82.5)	171 (100.0)
天涯掲示板	19 (26.4)	53 (73.6)	72 (100.0)

まずは三種のネットメディアの情報源に関わる転載記事・書き込み数を見てみると、表1のように、新浪ニュースサイトでの転載記事は1115件、99.6%を占めた。このサイトでの報道はネットユーザーが撮った事故現場の動画以外、すべては既存メディア（即ち新聞、ラジオ、テレビ）及び既存メディアのニュースサイトの転載記事であった。新浪微博、天涯掲示板はそれぞれ、30件（17.1%）、19件（26.4%）で、ニュースサイトとは逆に、記事や書き込みの転載は少なく、約8割がユーザー自らの分析、評論である。新浪微博における転載が天涯掲示板より少なかった原因の一つは、新浪微博では既存メディアの公式アカウントが多数あり、天涯掲示板では公式なアカウントは殆ど見られないためであると考えられる。

さらに、これらの転載記事・転載書き込みのうち、既存メディアからの転載記事が占める割合は以下の通りであった。

表2 三種のメディアの既存メディアからの転載記事・書き込み件数と割合 注：0の%は総報道件数のうちに、占める割合

ネットメディア	既存メディアからの転載記事	それ以外	合計
新浪ニュースサイト	1115 (100.0)	0 (0.0)	1115 (100.0)
新浪微博	21 (70.0)	9 (30.0)	30 (100.0)
天涯掲示板	5 (26.3)	14 (73.7)	19 (100.0)

¹ 新浪微博の人気微博は24時間内の新浪微博でコメント数と転載数に基づき、計算された人気上位100位に入った発信の一覧である。毎日一回更新される。

² 新浪微博の171件の内、2012年1月31までにアクセスした結果、8件のコメントは削除されたため、ここで集計した書き込みのコメントは163件×50の結果である。

³ 天涯掲示板は転載された数が上位10位、またコメント数が上位10位の両方に入った書き込み8件を人気書き込みとして選択した。

新浪ニュースサイトの転載記事のほぼすべては既存メディアが発信した報道であり、100.0%を占めた。微博の70.0%は掲示板の26.3%より高かったが、ニュースサイトと比べて二種のネットメディアでは既存メディアの転載記事が比較的少なかった。

以上の分析から、ニュースサイトは主に既存メディアの報道をそのまま転載し、既存メディアの情報をネットユーザーに伝達する機能を果たしたといえる。微博や掲示板はネットユーザーのオリジナルな発信内容が主であり、ネットユーザーの議論を中心に掲載していた。しかし、微博では既存メディアのアカウントが多数あるため、掲示板より、既存メディアからの情報を提供する機能が掲示板よりもあると見られる。

4.2 報道主題

上記の三つのネットメディアの報道・書き込みの内容分析について、その主題を9項目の категорияに分けて調査した。①「事故」（事故状況、被害状況、救援状況、死傷者数など事故の交通影響、外国での事例の紹介など）、②「被害者」（事故経験者の治療・生活状況、死傷者家族の動き、死傷者リスト）、③「救援活動」（市民、医療部門の被害者救援・救助活動）、④「指導者の動向」（中央指導者、省長など省庁以上レベル幹部の動向、講話等）、⑤「政府の動向」（中央、地方政府部門の対応・調査）、⑥「社会各面の動向」（市民、慈善団体、企業、病院など各面の動き）、⑦「鉄道部の動向」（鉄道部及び鉄道部門が記者会見での講話、事故対応、措置等）、⑧「復旧・賠償」（鉄道線路の復旧状況、被害者の賠償状況）、⑨「その他」である。図1は各カテゴリー別件数の割合を示した結果である。なお、一つの記事・書き込みにつき、一つのカテゴリーのみを採用し、ダブルカウントはしなかった。

図1 各報道主題の割合 単位：%（報道総数に占める割合）

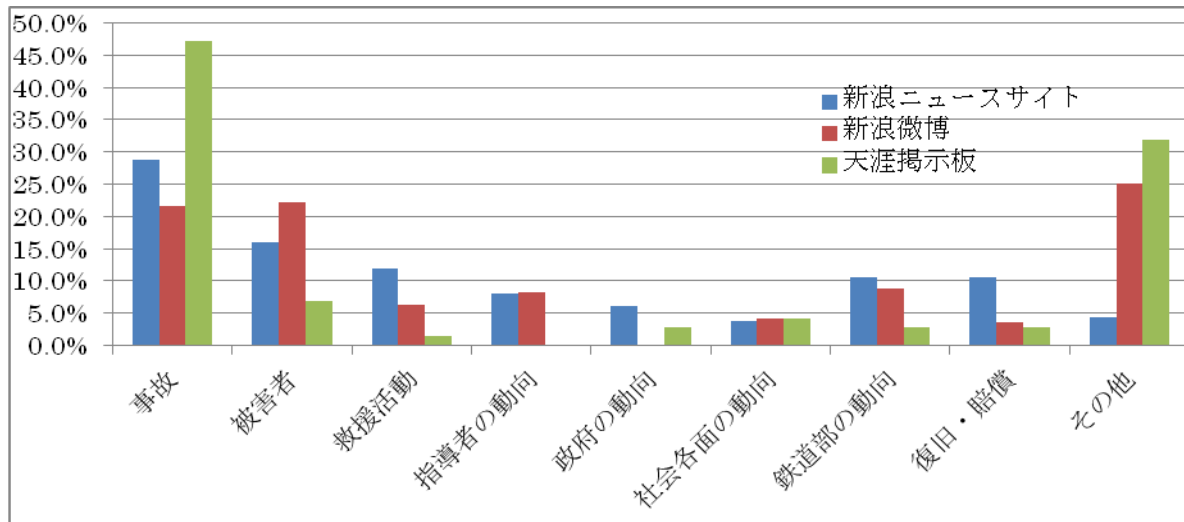


図1で示したように、「事故」カテゴリーの割合は、新浪ニュースサイトが28.7%、新浪微博が21.6%、天涯掲示板が47.2%で、三つのメディアとも高く、ネットメディアが事故の被害状況について多数の情報を伝えたことが伺える。また天涯掲示板では、事故カテゴリーの報道が一番多く、事故情報の伝達を最も重視していたといえる。

また、「被害者」カテゴリーについては、新浪ニュースサイト16.0%、新浪微博22.2%と大きな違いが見られなかったが、掲示板は6.9%と少なかった。従来の多くの災害報道では、政府の救援活動に感謝の気持ちを示す内容が多く報じられたが（趙2006）、今度の7・23事故報道においては、この種の報道は見られなかった。その代わりに、遺族の悲しみ、遺族と負傷者の家族が鉄道部の救援の不作为に対し抗議する声、政府の賠償活動への不満などの内容が多かったのが特徴である。

「救援活動」報道は、三種のネットメディアで割合が低かった。最も高い割合を占めているのがニュースサイトで、12%しか占めていない。微博は6.4%、掲示板は1.4%であった。

ニュースサイトでは「指導者の動向」、「政府の動向」に関する報道が三種のメディアに比べて高かったが、全体的な割合は低い。新浪微博、天涯掲示板では政府の動きに無関心とは言えないが、ネットユーザーが政治家、政府の動きに述べることは少ないことが分かった。

「社会各面の動向」については、ニュースサイト、微博、掲示板ともほぼ4%前後の割合で報道した。社会各面救援の動きはネットメディアでは重点ではなかったことが分かった。その代わりに、「鉄道部の動向」については、掲示板は2.8%と低かったものの、ニュースサイト10.5%、微博8.8%と割合が高かった。ニュースサイト、微博は鉄道部の対応、措置への注目度が高い

ことが分かった。

「復旧・賠償」カテゴリでは、ニュースサイトは1割ほどの報道量があったが、微博、掲示板は3%前後しかなかった。ニュースサイトは復旧・賠償状況について最も関心を示していた。

「その他」カテゴリでは、天涯掲示板及び微博とも25.2%、31.9%と高く、新浪ニュースサイトの4.4%を大幅に超えた。この理由は、ニュースサイトでは評論記事が少なかったが、一方、微博と掲示板では、議論が多岐にわたったためである。それらの議論の主な内容は鉄道部門システムの問題、腐敗問題、中国経済発展モデル問題の指摘などである。

三種のネットメディアの特徴を整理すると、新浪ニュースサイトは「事故」、「被害者」を比較的に多く報じ、それ以外のカテゴリは5%～10%の割合で報道していた。事故の被害状況、事故救援、事故対応、政府の各種の事故対応会議、指導者の動きの報道が多かった。一方、新浪微博、天涯掲示板では、事故及び被害者に関する情報提供以外、鉄道部門の問題や経済発展モデルの問題に焦点が当てられた。ニュースサイトの情報伝達機能、微博、天涯掲示板の問題指摘という特徴が明白に現れた。

4.3 報道、書き込みイメージ

次に、各発信の内容が与える印象を分析した。賞賛内容はプラスイメージとし、事故に関する中立の事実報道は中立イメージとし、政府、鉄道部批判、事故に関わる問題指摘、疑問はマイナスイメージとした。プラスのイメージとは、例えば「深夜12時半、温州市献血センターでは、たくさんの温州市民が献血に来た。これは微博の力だ」のように肯定的な内容を指す。逆に、マイナスのイメージとは、例えば「事故の発生から、事故への対応、事故の情報公開するまで、常識に合わないことばかりだった。鉄道部には人間性がなく、その対応には責任を逃げようとする意識が現れているのではないの？」のように否定的、疑問を示すものを指す。表3は集計した結果である。

表3 報道・書き込みイメージの件数と割合

イメージ	プラス	中立	マイナス	合計
新浪ニュースサイト	39 (3.5)	981 (87.6)	100 (8.9)	1120 (100.0)
新浪微博	11 (6.4)	119 (69.6)	53 (31.0)	171 (100.0)
天涯掲示板	1 (1.3)	31 (43.1)	40 (55.6)	72 (100.0)

マイナスイメージの内容は、天涯掲示板 55.6%、新浪微博 31.0%、新浪ニュースサイト 8.9%と大きく異なった。プラスイメージは、三種のメディアとも10%以下であった。突発事件が発生する際、既存の新聞、テレビでは、批判報道は殆ど見られなかったが、既存メディア報道を99%以上の割合で転載した新浪ニュースサイトでも、8.9%のマイナスイメージが見られたのは、鉄道部の事故責任追及の批判報道が多かったからである。また、既存メディアに対する批判的報道もあった。天涯掲示板には批判的書き込みが多数見られ、ユーザーの議論の批判性が微博より強いことが分かった。

4.4 指摘対象

三種のネットメディアはどのような対象に、批判的な発信を行ったのか。批判対象を1.中国共産党・中国中央政府・中国指導者、2.中国政治・経済体制、3.鉄道部、鉄道産業、4.地方政府・地方幹部・省庁幹部、5.その他に分けて集計した。

表4 三種のネットメディアのマイナス報道・書き込み指摘対象内訳

指摘対象	新浪ニュースサイト	新浪微博	天涯掲示板
中国党中央・中央政府・中央指導者	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
中国政治・経済体制及び発展政策・方針	8 (8.0)	8 (15.1)	4 (10.0)
鉄道部及び鉄道部門	84 (84.0)	33 (62.3)	30 (75.0)
地方政府・地方幹部・省庁幹部	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
その他	8 (8.0)	12 (22.6)	6 (15.0)
合計	100 (100.0)	53 (100.0)	40 (100.0)

結果は三種のネットメディアとも「鉄道部・鉄道産業」を6割程から8割程まで批判的的としていた。「鉄道部・鉄道産業」への批判は、鉄道部の管理体制について、鉄道部が鉄道産業での独占的地位を占めていること、鉄道部の汚職事件が多いこと、安全検査の不備、乗務員研修の手抜き、7・23事故の救援に力が入れられなかったことなど事故の対応の悪さなどから、鉄道運営管理、鉄道産業の発展の在り方など各面から批判した。鉄道部が独占する鉄道事業への不満が今度の事故をきっかけに表面化したといえよう。

鉄道部への批判以外では、「中国党中央・中央政府・中央指導者」に対する批判はなかったが、既存メディアでは批判し難い「政治・経済体制、党中央の方針、政策」が何件も見られた。例えば、天涯掲示板では7・23事故の根本原因は中国経済発展の不均衡、経済改革が不十分であることなどが指摘された。

4.5 新浪微博、天涯掲示板の書き込みフレーム

新浪微博、天涯掲示板での書き込みはどのような発言が集まっているのかについて、新浪微博 171 件と天涯掲示板 72 件の書き込みについて、「情報共有」（7・23 事故に関する情報伝達）、「批判・疑問」、「理性的分析」「その他」のフレームに分けて考察した。

図2 新浪微博、天涯掲示板人気書き込みのフレーム割合 % (報道総数に占める割合)

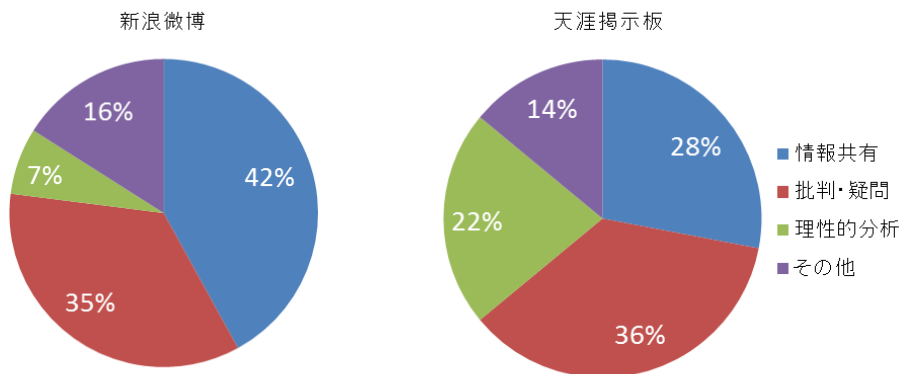
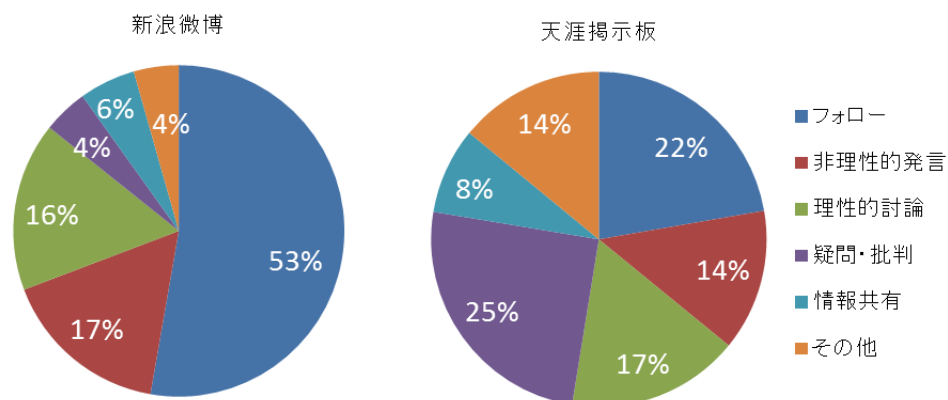


図2に表示された通り、新浪微博、天涯掲示板の「批判・疑問」フレームの割合は、36%、35%であり、ほぼ同じだった。異なる点は、「理性的分析」、「情報共有」のフレームである。「理性的分析」カテゴリーは、天涯掲示板は22%で、微博の7%の三倍以上あった。反対に、「情報共有」は、微博の42%が掲示板の28%を大きく上回った。以上のデータから、微博の情報伝達機能は掲示板より強いこと、掲示板は事故の分析力が強いことが分かった。

4.6 書き込みに対するコメントのフレーム

図3 新浪微博、天涯掲示板人気書き込みに対するコメントのフレーム割合 % (報道総数に占める割合)



新浪微博、天涯掲示板の書き込みに対して、他のユーザーが何をコメントしたのかは、どのような議論がネットで形成されているのかを明示する資料である。本研究ではコメントの内容について、「フォロー」（賛成）、「非理性的発言」（感情的発言）、「理性的討論」、「疑問・批判」（事故に関わる疑い、批判）、「情報共有」（事故に関わる情報伝達）、「その他」のフレームに分けて、集計した。結果は図3にみる通り、微博の「フォロー」は5割近くで掲示板の2割程より圧倒的に

多かった。一方、二種のメディアの大きな違いは「疑問」の比率で、掲示板は25%、微博は5%であった。「疑問」はコメントしたユーザーが事故に関わる疑いを提示した内容もあるし、書き込みで提示した事故に関する意見に疑問を提示した内容もあった。二つのメディアの「理性的討論」、「非理性的発言」は両方とも15%前後である。以上の分析から、微博では、書き込み者に対する賛同意見は容易に形成され、掲示板では、書き込み意見に対して簡単に賛同せず、理性的討論、感情的な発言、質問の提出など多様な議論が行われている。この点から、微博では、多数の賛同者を持つオピニオンリーダーが比較的容易に形成されると考えられる。一方、議論の場として、掲示板はより活発に深く議論できるネット空間と考えられる。

5. 結論

以上の三種のネットメディアの情報源、報道・書き込み内容の主題、イメージ、書き込みとそれらに対するコメントのフレームを分析した結果から、ニュースサイトは微博や掲示板よりはるかに情報源として既存メディアを依存しており、既存メディアとの繋がりが最も緊密である。次いで、微博、掲示板の順で既存メディアへの依存度が高いことが分かった。従って、ニュースサイトはネットユーザーが事件・事故に関する既存メディアの報道を取得する最も重要な窓口で、微博、掲示板で議論する前提となる客観的な情報を提供している。

また、携帯電話の登録者が多い微博と天涯掲示板のどちらにおいても多くの議論が交わされたが、微博は140文字の制限があり、詳細な事故分析が少なく、簡単に書き込み者の意見に賛成する特徴が表れた。掲示板では、字数制限がなく、パソコンの登録者が過半数を占める⁴。そのため、事故に関して詳細な事故原因の分析、事故救援の分析、鉄道部の事故対応への批判など、書き込み及びコメントの分析からも天涯掲示板の強い議論性が見られた。ネットにおける批判的言論は、既存メディアへの依存性と反比例している。既存メディアの依存性が高い新浪ニュースサイトのマイナス報道・書き込み率は最も低く、微博はマイナスイメージの書き込みが多かったが、中立的な事故情報の提供も多かったので、掲示板より批判性が弱く、天涯掲示板は高い批判性を示したといえる。三種のネットメディアがそれぞれの特徴を持ち、既存メディアを依存し、7・23事故に関する鉄道部門における問題点を指摘するネット世論が形成された。

さらに、微博、掲示板では中国経済発展モデル、鉄道部への批判が多数見られたことは、中国のネットメディアでは議論の多様性があることを証明した。また、それらの議論は市民からの発言はネットメディアを通じて促進したといえるだろう。

本研究は、新浪ニュースサイト、新浪微博、天涯掲示板の分析を通じて、7・23 鉄道事故におけるネット世論の形成が明らかになった。今後の課題としては、他の事例を取り上げ、比較的な分析によって異なる種類の事件に関するネット世論の形成を明らかにすることを考えている。

参考文献

- 1) 王芸(2012): 对微博舆论场的传播学解构——以“温州动车事故”的微博传播为例, 『新聞界』, 2012年第1期。
- 2) 楊雅淇(2012): 7·23 动车事故的新闻报道框架分析——以新浪网为例, 『新聞世界』, 2012年第1期。
- 3) 毛亜美(2012): 新闻网站重大突发事件报道的框架分析——以人民网与凤凰网对“7·23 动车事故”报道为例, 『新聞世界』, 2012年第1期。
- 4) 趙士林(2006): 『突發事件与媒体報道』, 復旦大学出版社。
- 5) 新浪ニュースサイト ホームページ<<http://news.sina.com.cn/>>
- 6) 新浪微博 ホームページ<<http://weibo.com/>>
- 7) 天涯掲示板 ホームページ<<http://bbs.tianya.cn/>>

⁴ CNNIC 「2012年中国互聯網發展狀況統計報告」2012年